
看板息子物語

KAHO

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

看板息子物語

【Nコード】

N8747K

【作者名】

K A H O

【あらすじ】

銀狼ぎんろうと犬彦いぬひこは人間と獣人が共に暮らす世界でまったりのんびり暮らししている兄弟。そんな彼らのどこまでもまったーりした日常物語。

主要登場人物紹介（前書き）

キャラのプロフィールを載せてみました。

主要登場人物紹介

銀狼 ぎんろう

お菓子常備な甘党青年…。

狼と人間とのハーフ

眼は青

誕生日：9月17日

年齢：20歳

血液型：A B型

趣味：買い物（雑貨屋巡り）

弟に絡むこと（大体無視される）

昼寝

好きな場所：室内、木陰

好きな物：可愛い物

一人称：僕

一言：「ねえねえ、これ、可愛くない？」

満月の夜は狼になれます。

犬彦 いぬひこ

銀狼と同じく狼と人間とのハーフ

オッドアイ（本人からみて右が赤、左が青）

誕生日：12月14日

年齢：17歳

血液型：A型

趣味：散歩、新商品・限定品集め

好きな場所：公園

好きな物：限定品

一人称：俺

一言：「銀の事は気にしなくていいから。
満月の夜は狼になれます。」

狗人いぬひと

狼と人間と、狐の血を受け継いでます。

眼は緑

誕生日：10月1日

「・・・」

年齢：17歳

血液型：A型

趣味：銀狼

「銀狼さんが俺の全てだ！」

音楽、読書、写真

「・・・」

好きな場所：銀狼の側

「一番落ち着く場所だから」

好きな物：・・・（ノーコメント）

一人称：俺

「・・・」

一言：「銀狼さん、今どこ？」

リベル（本名：鈴木涼太 スズキリョウタ）

頭が良い。勤勉タイプ。

知識も学力も常識もあるが、外見が不良なので恐れられている。
海外にパティシエ修行に行っていたので、22歳で大学2年生。

誕生日：4月1日

「まあその・・・なんだ。こんな日に生まれちゃったもんだから面倒な事に・・・【ブツブツ】」

年齢：22歳

血液型：AB型

趣味：菓子作り・勉強

「趣味というか・・・いつかは叶えたい夢なんだがな・・・【遠い目】」

好きな場所：図書室・自室

「普段周りが騒がしいからな。落ち着ける時間も大切だ」

好きな物：本・甘い物

「今は洋書にはまってる。甘味は・・・やっぱり良いよな。幸せな気持ちになれる」

一人称：俺

「昔から“俺”だったな」

一言：「走るな。転んでも知らないからな」

恭夜キヨシチ

うさぎ？のお姉系のくせに全然お姉っぽくない。

三度の飯より人をからかうのが好き。

誕生日：2月14日

「うふふ　　ロマンチックよねえ」

年齢：20歳

血液型：O型

趣味：銀狼、その他いじり

「あたしの手の上で転がされている子を見てるのって凄く楽しいのよね」

好きな場所：小洒落た喫茶店・バー・居酒屋

「お酒がないと生きていけないわ!」

好きな物：酒・辛い物

「塩辛とか・・・あゝ、お酒飲みたくなってきた・・・」

一人称：あたし・俺

「“俺”なんて言うわけ無いじゃない【黒笑】」

一言：「やつだあゝ。冗談よ、冗・談」

観月瑠羽

観月紫苑の弟で、猫と人間とのハーフ。

誕生日：8月15日

「15日つてえゝ、お菓子の日なんだつてさあ」

年齢：17歳

血液型：A B型

趣味：大食い（でもよく動いているからか？太らない）

「昔つから周りが色々くれたからさあ。やっぱり食べないと勿体ないし?」

好きな場所：賑やかなところ

「えへへゝ、俺ね、みんなでワイワイやってるのが一番好きなんだあ!」

好きな物：ジャンクフード

「ケチャップとかがいつぱい入ってるのなんか特に・・・!!」

一人称：俺

「たまに“俺っち”とか言っちゃうんだけど、そのたんびに周りからなおされる・・・。」

一言：「犬ちゃん、おはよあゝ。」

田ノ浦健夜 たのうらけんや

看板息子の中では珍しい人間男子
全体的に優しい色なイメージです。

髪と目の色は茶色

誕生日：10月1日

「狗人と同じ日なんだよね。凄い偶然じゃない？」

年齢：17歳

血液型：O型

趣味：絵を描くこと、人間観察

好きな場所：特になし？

「お風呂とお布団に入ってる時が一番幸せだなー。」

「・・・ん？それって自宅って事??」

好きな物：お抹茶

「お抹茶さま〜！」

一人称：俺

「昔は“僕”だったんだけど、親父に言われてから“俺”になっ
たんだよね。」

最後に一言：彦っつぁーん！あのさ、今日暇？

観月紫苑 みつきしおん

誕生日：6月6日

年齢：19歳

血液型：AB型

趣味：車（高いの持ってるけどこだわりは無い。運転するのが好き。
）

アクセサリ作り（犬彦・銀狼・狗人・弟がつけているアクセサリ
ーは大体紫苑作）

好きな場所：海

好きな者：自分に従順な者

一人称：俺、俺様

一言：「またお前らか。」

主要登場人物紹介（後書き）

息子達に少しでも興味を持って頂けたら幸いです。

まったり書いていきたいと思っておりますので、

お時間のあるときになんとなんく覗きに来て頂けたら嬉しいです。

大学組3名のお話。

「ああああっ！心配だよーっ！虐められたりしてないよね？最近の子は加減知らないっっていうし…。」

「……おい」

「靴に画鋏とか、机に落書きとか…！いや、犬彦が優しくして良い子でクラスの人気者。って事は僕が一番わかってるつもりだけど世の中には色んな人がいるわけで。だいたい…」

「…おいっ！！」

「わあ！何時からいたの？リベル！」

「お前な…ガキじゃねえんだからほっとけよ」

「でもでも！大学と違って高校は毎年クラス変えが！新しい環境がっ！」

「…（遠い目）」

同じ学科でサークルも同じ大学仲間のリベル（本名鈴木涼太スズキリョウタ）は

赤く染めた髪に白いメッシュが印象的な…はつきり言ってぱっと見不良少年であるが、

実際の彼は実直で面倒見が良い好青年である。

（そんな彼は銀狼のストッパーであり、被害者。）

只でさえ弟思い（世間ではそれをブラコンと言つとか言わないとか）な彪牙家長男銀狼。

どのくらいブラコンかと言つと

父親の急な転勤で地方に移り住まないといけない事を両親から知らされた際に

「高校途中で転校なんて犬彦が可哀相！」

…何て言う事を理由に無理矢理突っぱねたくらいである。

「どうしよう!?!どうすれば!?!」

「メールか電話でもすれば良いんじゃないか?」

「犬彦真面目だから律儀に校則守ってるんだよー!」

「つまり学校では携帯持つてないと。」

「そんな所も犬彦の素敵ポイントなんだけどね!」

「……」

リベルが言葉を発せないでいると、兎耳の人物がニコニコと（若干腹黒い）笑顔で近付いてきた。

「なあゝに?また銀ちゃんってば弟くんの心配?飽きないわねー。」

「恭夜!僕は犬彦のただひとりのお兄ちゃんなんだから、心配するのは仕方ない事なんだよ!特にこの時期は……」

また始まった銀狼の弟心配トークをいい加減スルーしたりリベルは深い溜息をはいてから兎耳に話し掛ける。

「お前：それ何処から持って来たんだよ」

恭夜と呼ばれた中性的な雰囲気を漂わせた青年は…両手に酒瓶を持ち、けらけらと笑っていた。

「うふふー。とあるサークルさんが用意してたのをちょっとだけ分けて頂いたのよ」

「お前：それ犯さ「りょーちゃん」ってば、眉間にシワ寄ってるわよ。せつかくのイケメンが台なしじゃない」…」

「リベルー犬彦心配だから高校行って来ても良い？ねっ？？」

今日一番の重い溜息をはきながらリベルは何故自分がこんな（苦労性）ポジションなのかと真剣に考えていた。

そんな彼らの日常。

大学組3名のお話。(後書き)

今回は大学生メンバーの紹介を兼ねたお話にしてみました。

まだ全キャラの紹介が出来ていないので、

次回もとりあえずキャラの紹介小説になるかと思われませう。

ある程度キャラ紹介が終わったら各キャラ視点のお話を書こうと思います。

最後まで読んでくださりありがとうございました。

高校組3名のお話。

―大学組がぐだぐだな会話をしている時、おうめい鳳鳴高校―

「…定期的にくしゃみが出てしょうがないんだけど…。じゅう瑠羽、なんとかしてくれ…」

「…あはははー。犬けんちゃん、俺が銀狼さんにどうこうできないって知ってるくせにいー」

犬彦と級友の瑠羽もまた、昼休みにぐだぐだな話をしていた。

猫耳が微妙に似合ってるんだか似合って無いんだかわからない、チヤラついた外見の瑠羽は情けなく耳を垂れ下げる。

「お前…また耳垂れてるぞ。しゃきつとしろよ」

「!」

「本当、紫苑さんと兄弟だとは思えないよな」

「あわわわ…!兄貴の話はよそうよ!俺のテンションだだ下がりがからあ!」

「紫苑さんはインテリだし、物腰柔らかいから接しやすいし…」

「おおーいつ!俺の声、聞こえて無いんですか?そうなんですか鬼畜なんですかあー!?!」

「ほんとお前からかわれるの上手だよな！ミスター弄られだなー。良かったなー。」

「何この棒読み！怖い！鬼畜は兄貴だけでもうお腹いっぱいなんだよ本当やめて。心折れちゃうからあ！」

「あははは」

「だからあー！！…犬ちゃん俺の前だと普通のクールキャラ崩れすぎだからねえ！？」

「愛故だよ愛故ー。あっははー。」

「だあぁーっ！」

「よお、弄られ八兵衛とくそ野郎」

弄り倒されている溜羽をさらに弄って話に加わって来た狐耳の少年は犬彦に全力で嫌いオーラを放ちながらやって来た。

黄金色のさらさらな髪をわしゃわしゃと触りながら、犬彦に話し掛ける。

「…お前、銀狼さんに心配掛けるなんて愚の骨頂だからな！気をつけるよ！」

「いぬ人。…お前、また学校先に行ったる。せつかく同じ家に住んでるんだから…」

「うるさい！…俺はお前と馴れ合うつもりはないんだからな！」

フンツと鼻息あらく狗人は自分の席に戻って行く。

「…」

「…犬ちゃん…相変わらず嫌われてるねえ…」

「…俺としては仲良くなりたいたいんだけどな…。あいつ、銀狼の事になると見境無い所あるから」

「彪牙家兄弟仲良いからさあ、親戚だからってやっぱりちよつと緊張しちゃってツンケンしちゃうんじゃない？」

「そうなのか…？……だとしたらやっぱりこっちからアクション起こしていかないとだな」

狗人は銀狼に溺愛されている犬彦が憎たらしいだけなのだが、それが本人達に伝わることはなかった。。。

「…っつて、もうこんな時間かあ！そろそろ食堂行かない？」

「うんうん、腹へったな！。あ、彦っつぁんに弁当作って来たんだけど、瑠羽は今日昼どする？」

「………っておい、ナチュラルに会話に入ったな健夜」

「彦っつあん、はい。昨日は晩ご飯あんがとねー。」

全体的に落ち着いた雰囲気を纏った田ノ浦健夜たのうら けんやは一人暮らしをして
いる苦学生のため、

時々彪牙家に夕食を「馳走」になっており、せめてものお返しに……
と、度々犬彦にも弁当を作って来ている。

「良いなあ、おべんとー……」

「1食300円で売ってやるうか？」

「健夜……。」

「まあとにかく、購買行って買って来るよお。何か買って来るもの
ある？」

「特にないかな」

「俺も……って瑠羽お前このパンとおにぎりは……」

「んー？それは朝ご飯の残りとおやつ用」

「10個くらいあるだろこれ。……菓子パン多いな」

「これじゃ足りないもんねえ〜。んじゃ、ちょっと行ってくる〜」

ばたばたと教室を後にする猫耳を見届けながら、おやつになるので

あるつ物を見る。

「・・・あいつの食生活が心配すぎるんだが」

「彦つつぁんてはオカン気質」

そんな彼らの日常。

高校組3名のお話。(後書き)

高校生組のお話でした。

これで大体のキャラが出せたので、
次回からは各視点からのお話も書いていこうと思います。

* 観月紫苑は瑠羽の兄で、大学1年生です。

* 狗人はツンデレではありません。

(銀狼にのみデレデレでその他にはツンツンが基本)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8747k/>

看板息子物語

2010年10月9日14時18分発行